

令和4年度 日南市立南郷中学校 学校経営評価書

○ 学校経営ビジョン

「協力」「協調」「協働」をキーワードに、【チーム南郷】として学校教育目標の具現化に努め、保護者や地域に信頼され、一人一人が輝ける学校を創造する。
4段階評価 [4 期待どおり 3 ほぼ期待どおり 2 期待を下回る 1 改善を要する]

令和5年2月

重点目標	評価項目	具体的取組・実践(数値)目標	指標別評価	総合評価	結果の考察・分析及び改善策	学校関係者評価及びコメント
1 学力の向上(知) ◆ 自ら学びに向かう生徒を育成する。	① 授業改善の推進 ＜CAPDサイクルの確立・ロイノートを活用・一人一研究授業の実践・『南郷スタイル』の徹底＞ ② 基礎的な学力の定着 ＜発達段階に即した学習課題の提供・ICTの活用・自律型宅学習習慣の確立・ノーメディアの取組＞ ③ 読解力の育成 ＜探求的な学習の推進・活用問題の作成・読書習慣の育成＞ ④ 特別支援教育の充実 ＜組織的な個別支援体制の整備・研修の充実＞	① 「4+4」のチェックポイント」およびプラス1チェック(ICTを活用した主体的学び・対話的学び・深い学びのいずれかの項目を意識)による相互授業参観を実施し、さらにCAPDサイクルに沿った普段の授業改善を行うことで評価3・4の合計が80%以上を目指す。 ② 継続した家庭学習の見直しを実施し、重要性を図ることで、毎日の家庭学習時間が90分以上となるようにする。また、各家庭に対して取組内容の周知を徹底し、学校と家庭が連携して学習指導にあたる。 ③ 定期テストにおいて、各教科で活用問題を工夫し、記述式の問題に慣れさせ、正答率50%以上を目指す。 ④ 校内教育支援委員会を年5回開催し、組織的な個別支援体制の整備を図る。	4 3 3 3	3.3	① 計画通り毎学期1回の相互授業参観を実施し、事後研究(反省、ICTの在り方について協議、研究授業レポート作成)をすることで、次時の授業改善に生かすことができた。来年度も継続して取り組むことで、授業力向上を図りたい。 ② 各学年で年2回の家庭学習の見直しを行った。半数以上の生徒が90分以上の家庭学習に取り組んでいる。実力テストを分析し、各家庭に「学力向上通信」として周知徹底を図った。今後は、家庭学習時間の確保に努める必要がある。 ③ 定期テストにおいて各教科で活用問題を工夫し出題したが、どの教科も正答率50%には届かなかった。来年度は授業でも取り扱っていく。 ④ 年4回の校内支援委員会を実施して、校内で可能な支援体制を整備し、関係機関に相談した。	3.4 ○ 相互に授業参観する取組や研究授業が、先生方の授業力向上につながっていると思う。(2) ○ 半数以上の生徒が、90分以上の家庭学習に取り組んでいるという結果から、家庭での学習が習慣化されていると思った。 ○ 家庭学習時間が思ったよりも増えている。 ○ 南郷中の学力向上はとても重要と考える。家庭学習が浸透するような取組をお願いしたい。 ○ 家庭も協力してしっかりと見守ってほしい。(2) ○ 家庭学習にもっと力を入れてほしい。 ○ 「学力向上通信」の発行が効果的だと思う。 ○ 生徒が学校や家庭で勉強をやった「気」で終わっていないか疑問である。やる気をもたせる授業を期待する。 ○ 正答率が上がる様、対策に期待する。 ○ 校内支援委員会を細やかにお願いしたい。
2 心の教育の充実(徳) ◆ 『ルール・マナー・モラル』の視点で判断し、豊かな人間性や社会性を身に付けた、自律した生徒を育成する。	① 基本的な生活習慣の確立 ＜自律型校則の浸透・凡事徹底・脚下照顧＞ ② 情報モラル教育の充実 ＜ネットトラブル防止教室・実態調査＞ ③ いじめ・不登校問題への対応 ＜生活アンケート・教育相談・関係機関との連携・校内支援委員会＞ ④ コミュニケーション力の向上 ＜イトコメガネ・さきがけあいさつと返事＞	① 基本的な生活習慣の確立 ・ 毎月の身だしなみ点検実施と、毎学期の校則検討委員会で校則の見直しを図る。 ・ 時間を守る、あいさつをする、返事をするなどの凡事徹底を図る。 ・ 靴並べ指導「脚下照顧」を通して、落ち着いた学校生活を送れるようにする。 ② 情報モラル教育の充実 ・ ネットトラブル防止教室等を実施し、情報モラル向上に向けた啓発を図る。 ・ スマホ等に関するアンケート調査を実施し、実態把握に努める。 ・ 事例をもとに情報モラルに関する職員研修を行い教師の実践的指導力を高める。 ③ いじめ・不登校問題への対応 ・ 月に1回、生活アンケートを実施し、生徒の実態把握に努める。 ・ 週に1回、主任会を実施し、いじめや不登校の共通理解を図る。 ・ 月に1回、いじめ不登校対策委員会やチーム支援会議を実施し支援を検討する。 ④ コミュニケーション力の向上 ・ 月1回の中央委員会で各委員会の活動状況を報告し改善を図る。 ・ 行事の運営に積極的に携わり、生徒主体での活動を推進する。 ・ 南郷ポストを活用し、学校の現状を確認し改善を図る。	3 4 4 4	3.8	① 基本的な生活習慣の確立においては、容儀面など大きな乱れは見られない。学校評価アンケートの結果、スケジュールノートに関して評価が低い為、来年度は入学式後に再度、使い方指導を行う。 ② 情報モラル教育の充実においては、実態調査の結果、スマホの所持率が全生徒の約9割であることが分かった。そこで自己指導能力の育成を目指して、生徒主導で「スマホのおきて7カ条」を作成した。例年に比べ、SNSのトラブルなどは減少している。 ③ いじめへの対応においては、生活アンケートを毎月実施したことで早期発見・早期対応に努めることができた。不登校に関しては、欠席日数30日以上の子が15名おり、支援体制の改善が求められる。継続して関係機関との連携を図っていく。 ④ コミュニケーション力の向上においては、学校評価アンケートの結果、生徒・保護者・教師ともに約8割があいさつについて肯定的な評価をしている。継続していけるよう生徒会を中心とした自治活動を進めたい。	3.7 ○ 登下校中も服装の乱れなく、きちんとしている。挨拶も良くなったが、もう少し元気な声が出ると思う。 ○ 「南郷中スマホのおきて7カ条」はとてもよい取組。生徒が作成したということに驚いた。いわゆるブラック校則の見直しが先進的に行われていると思う。 ○ 学校の取組が家庭に届くといい。親の勝手にスマホOKの日常が気になる。 ○ 生徒一人一人に心の余裕をもたせることが大事だ。 ○ いじめに対して、対策は良くなっていると思う。 ○ コロナ禍の影響もあり、不登校生徒が増えている。今後も細やかな対応を願う。 ○ 今年度は他校と比較して不登校生徒数が多い状況であった。不登校生徒に授業だけでも受ける考えがあれば、リモートで受けられる体制を構築してもよいのではないかと。 ○ コロナ禍が明けると地域行事等が活発化すると思われる。生徒も積極的に参加をお願いしたい。
3 健康・安全教育の充実(体) ◆ 心身ともに健康な生徒を育成する。	① 健康教育の推進 ＜健康相談・肥満防止・メディアコントロール＞ ② 安心・安全な健康づくり推進 ＜命の教育・防災教育・感染症対策＞ ③ 体験的な活動の推進 ＜キャリア教育(職場体験等)・福祉体験・部活動・ボランティア活動＞	① 対象生徒に定期的な体重測定を行い、肥満(軽度、高度)の割合を5%以下にする。(令和4年度初め10%) 生活リズムを自主的に整えられるように、学習部と連携し、ノーメディアの取組やレインボープランでSNSとの向き合い方について理解を深め、自己の生活リズムを調整できる生徒100%を目指す。 ② 避難場所、避難経路の確認を全校生徒で行い、常時、天災に遭っても避難できる生徒率100%を目指す。年2回の体験的な活動を計画し、防災意識を高める。 手指消毒や手洗い、うがい、マスク着用を徹底し感染予防に努める生徒100%を目指す。 ③ 体力テストの分析結果から自らの体力の現状を理解し、積極的に運動を行う生徒の割合85%を目指す。 部活動を通して、自己存在感の向上や共感的人間関係の構築を図る。	3 3 3	3.0	① 肥満の割合については13.3%である。男子生徒は減少が見られる。しかし、女子生徒については、成長過程において難しい部分もあると考える。 ノーメディアデーの設定を定期テスト期間中に行い、使用時間が減ったり、学習に集中して取り組んだりする生徒が増えた。来年度も継続していく。 ② 5月に地区別避難場所・経路の確認を行い、避難訓練を年2回(火災・地震)実施したが、体験的な学習をすることができなかった。来年度は実施したい。 手指消毒、マスク着用はほぼ全員の生徒が守り、校内での感染予防に努めることはできている。 ③ 運動に親しんで取り組むことができ、体力テストの結果から積極的に運動を行う生徒は90%である。	3.4 ○ 自力登校を呼びかけるのは良い取組だと思う。自家用車での送迎を安易に行う保護者もいる。不審者情報も多いので、天災に対する心構えと同様に大切である。 ○ 心身ともに健康な生徒の育成ができていると思う。今後も取組をお願いしたい。 ○ 肥満は病気の元凶(生活習慣病等)となる。更なる家庭と連携した取組をお願いしたい。(2) ○ 地区での避難訓練へ参加をお願いしたい。 ○ 自然災害が多くなっている現在の地球環境を教えることが大事だ。 ○ 学校での感染予防対策、有り難い。 ○ 運動に積極的に参加する生徒が楽しみだ。 ○ 部活動に参加できない(いわゆる帰宅部)生徒の家庭での指導はどうなっているのか。
4 家庭・地域との連携 ◆ 家庭や地域と連携し、地域から誇りにされる開かれた学校を創造する。	① 日南ふるさと学の充実 ② 地域の素材・人材を生かした、体験的で質の高い学びの実現 ③ 学校運営協議会の充実と活用 ④ 家庭・地域への積極的な情報発信 ⑤ 地域に発信・貢献できる教育活動の創造	① 港の町南郷を知る活動や職場体験学習等、総合的な学習の時間を中心に地域に根ざした活動や地域の素材・人材を活用した活動を学期1回以上実施し、日南ふるさと学の充実を図る。 ② 年3回の学校運営協議会の実施と学校が抱える課題の解決を目指す。 ③ 学年通信・学級通信・HP等による定期的な情報発信を月1回以上目指す。 ④ 参観日出席の呼びかけを学年通信等で行い、参観日の参加率80%以上を目指す。 ⑤ 地域コーディネーターと連携し、地域人材を活用した取組を年1回以上実施する。	4 3 4 3 4	3.6	① 総合的な学習の時間を中心に地域に根ざした活動を可能な限り実施することができた。更なるキャリア教育の充実につながるよう取り組んでいく必要がある。 ② 年3回の学校運営協議会を実施し解決策について協議できた。 ③ 定期的な情報発信を各担当で実施した。 ④ 参観日は早めの案内を行い、参加率の向上を図った。(第1回中止 第2回74% 第3回53%、文化発表会、持久走記録会には多数の参加あり) ⑤ 地域コーディネーターとの連携により、計画的に体験的な活動を実施することができた。	3.7 ○ コロナ禍で実施できていなかった職場体験学習の再開を嬉しく思った。 ○ 矢野さんや地域との連携で「南郷ならではの」取組をされているのが素晴らしい。(3) ○ 情報発信をよく目にする。感謝している。 ○ 参観日の参加率は目標を下回っているが、平日開催であるので十分な結果である。 ○ アンケートの結果からも良い評価が得られている。今後もよろしく願いたい。 ○ 地域での登下校の見守り、食育活動など、保護者や子の安心・安全のためにやっていることをPTAにもっと理解してもらいたい。

